

「家庭総合」シラバス (4単位を2学年にわたって履修する例…各学年で2単位ずつ履修)

| | | |
|--------|----------|----------|
| 「家庭総合」 | 単位数 | 2単位 |
| | 学科・学年・学級 | 普通科・第1学年 |

1 学習の到達目標等

| | |
|------------|---|
| 学習の到達目標 | 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 |
| 使用教科書・副教材等 | 「家庭総合」－明日の生活を築く－ 開隆堂 |

2 学習計画及び学習のねらい

| 学期 | 月 | 学習内容 「いつ何を学ぶのか」 | 学習のねらい 「何ができるようになるのか、どのような力が身につくことをめざすのか」 |
|------|--|--|--|
| 第1学期 | 4 | 「家庭総合」の学習について | <ul style="list-style-type: none"> 「家庭総合」を学習するにあたって、学習の意義や内容・方法・評価について理解します。 生活事象を総合的・多面的にとらえ、自分と他者と交流し、実習や実践をしながら学びます。 |
| | 5 | 人の一生と発達 ①人の一生と発達課題 | <ul style="list-style-type: none"> 生涯発達の視点で、各ライフステージの特徴と課題について理解します。 長い人生の中の「今」という文脈で、青年期にある自分を見つめなおすことを通じて、これからの人生をどう生きていくかを改めて考えます。 |
| | | ②青年期の課題 | <ul style="list-style-type: none"> 自己理解、心身の自立や生活者としての自立などを理解し、青年期の生き方について考えます。 |
| | | ③生活の自立と意思決定 | <ul style="list-style-type: none"> 「青年期」がどのような時期かを知るとともに、青年期にある自分自身を見つめなおすことを通じ、これからの生き方や方向性について考えます。 適切な意思決定が必要であることを理解し、個人の意思決定は社会のあり方と大きくかかわっていることについて考えます。 |
| | 6 | 家族・家庭と社会 ①現代の家族と 家庭の機能 | <ul style="list-style-type: none"> 家族が家族個人の発達に果たしている機能と社会に対して果たしている機能について、それぞれの歴史的変化、文化や社会による特徴を理解します。 日本の親子関係、夫婦関係の現状をおさえながら、現代家族の特徴について考えます。 |
| | | ②家族関係と あなたの人生 | <ul style="list-style-type: none"> 自立について考え、何が求められているのかを理解します。 結婚にかかわる意識の変化を知るとともに、結婚に関する現状を理解します。 具体的な事例や演習を通して、家族関係の在り方を考えます。 |
| | | ③家庭生活を支える労働 ④家族と法律 | <ul style="list-style-type: none"> 生活を支える労働を理解し、家事労働と職業労働から、現状と課題を考えます。 婚姻、夫婦、親子などに関する法律の基礎的知識を理解します。 家族・家庭と法律は密接な関係にあることを知り、法律が人びとの意識や価値観を変え、法律を変えることによって多様な生き方、考え方のできる社会をつくっていくことを考えます。 |
| 7 | ⑤これからの家族と 家族支援 暮らしと経済 ①生活を支える家計 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭生活を支える社会制度や社会福祉の基本的な理念について理解します。 これからの家族の多様性が尊重されることや家族一人ひとりの基本的人権が守られることが大切であることを理解し、困難がある場合の対応策などを考えます。 家庭の経済生活を営むために、家計の把握が重要であることを理解します。 ローンやクレジットカードのしくみを理解し、利用上の注意点や経 | |

| | | | |
|------------------|----|--|--|
| | | ② 見えるお金と 見えないお金 ③ 将来のための経済計画 | 済計画を立てる重要性について考えます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ キャッシュレス社会が家計に与える利便性と問題点を理解します。 ・ 家計と国民経済・国際経済との関連について理解します。 ・ 生涯にわたる短期，長期の生活設計を行い自分の課題を考えます。 |
| 第 2 学 期 | 9 | 食べる ① 人間と食べ物 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各ライフステージにおける食生活の課題を理解します。 ・ 規則正しい食事は生活活動リズムに影響することを理解します。 ・ 日常用いられる食品から栄養的な特質などを理解します。 ・ 食品の腐敗，食中毒，食品添加物について理解します。 ・ 食品情報を正しく理解できる消費者になる大切さを考えます。 ・ 栄養を満たす食事のために，基礎的・基本的知識を身につけます。 ・ 日常の献立の手順を理解し，食品群別摂取量のめやすを満たす1日分の献立について考えます。 ・ 調理による色，味，テクスチャーなどの変化を食品成分の変化とかわらせて科学的に理解します。 ・ それぞれの調理法の特徴について，調理器具の特徴や取り扱い方などとも関連し，理解します。 ・ 行事食や郷土食などの中に生活の知恵が生かされていることについて考えます。 ・ 食文化とその価値を，行事食や郷土料理を通して理解します。 ・ 食生活を取り巻く環境が変化している現状を理解します。 ・ 環境保全につながる様々な取組，内容を理解し，望ましい食生活のあり方を考えます。 |
| | 10 | ④ 食事をつくる | |
| | 11 | ⑤ 食生活の文化 | |
| | 12 | ⑥ 食生活と環境 | |
| 第 3 学 期 | 1 | 共生社会における 家庭や地域 ① 共に生きる | <ul style="list-style-type: none"> ・ ノーマライゼーションの理念を土台とした社会をつくることが重要であることを理解します。 ・ 他者の存在を理解し，様々な境遇や立場の人びとも包摂する社会をつくるための課題について考えます。 ・ 誰もが様々なリスクに遭遇する可能性があることに気づき，社会福祉の種類と活用を理解します。 ・ 人と人とのネットワークや社会制度について考えます。 ・ 支え合い生きる「共生」の概念について考えます。 ・ 実際に地域の活動に参加し，具体的に何ができるかについて考えます。 |
| | 2 | 高齢期の生活と福祉 ① 高齢者とかわる | |
| | 3 | ② 高齢者の生活と課題 | |
| | 3 | ③ 人間の尊厳とケア | |
| | | ④ 高齢社会の課題と福祉 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者と話す体験などを通して高齢者について理解します。 ・ 高齢者の心身の変化と特徴や生活について，交流を通して理解します。 ・ 生涯を見通して高齢期をとらえるとともに，高齢者の身体的，心理的特徴について理解します。 ・ 家族形態の変化に伴う，家族・社会の抱える今後の課題について考えます。 ・ 高齢者の意思の尊重や残存能力を生かす生活支援の在り方について考えます。 ・ 日常生活の介助を体験し，尊厳を守るケアに関する理解を深めます。 ・ 相手のニーズやペースに合わせることや，コミュニケーションの重要性について考えます。 ・ 高齢化の特徴や居住地域の高齢化の状況について理解します。 ・ 高齢期を豊かに，魅力的に生きるには何が必要かを考えます。 ・ 高齢者福祉について理解し，現状の課題について考えます。 |

3 評価の観点、内容および評価方法

| 評価の観点 | 評価の内容と方法 | |
|-----------------|--|--|
| <p>関心・意欲・態度</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者との関わりと福祉，消費生活，衣食住などについて関心をもったか。 ・ 生活の充実向上を目指そうとしているか。 ・ 学んだことを生活に生かそうとする実践的な態度を身につけたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート，レポートへの取り組み ・ ホームプロジェクトでの実践 |
| <p>思考・判断・表現</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者との関わりと福祉，消費生活，衣食住などについて，自らが課題を見いだしているか。 ・ 課題の解決を目指して思考を深め，適切に判断する力を身に付けているか。 ・ 自らの考えを工夫し創造する能力を身に付けているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ワークシート，レポートの考察内容 |
| <p>技能</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者との関わりと福祉，消費生活，衣食住などに関する技術を総合的に身につけているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 被服製作作品 ・ ホームプロジェクトの実践内容，発表内容 ・ ワークシート，レポート |
| <p>知識・理解</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者との関わりと福祉，消費生活，衣食住などについて理解したか。 ・ 人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者との関わりと福祉，消費生活，衣食住などに関する知識を総合的に身につけているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ワークシート，レポート |

4 各学期，年間の評価方法

- 学期ごとの評価は，定期考査を70%，その他の評価を30%として合わせて評価します。
- 年間の評価は，1～3学期の成績を平均したものに基づいて総合的に評価します。

| | | |
|---------------|----------|----------|
| 「家庭総合」 | 単 位 数 | 2 単 位 |
| | 学科・学年・学級 | 普通科・第2学年 |

1 学習の到達目標等

| | |
|------------|---|
| 学習の到達目標 | 人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者とのかかわりと福祉，消費生活，衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ，家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 |
| 使用教科書・副教材等 | 「家庭総合」－明日の生活を築く－ 開隆堂 |

2 学習計画及び学習のねらい

| 学期 | 月 | 学 習 内 容 「いつ何を学ぶのか」 | 学 習 の ね ら い 「何ができるようになるのか，どのような力が身につくことをめざすのか」 |
|------------------|-------------------------------------|--|---|
| 第 1 学 期 | 4 | 2年次の「家庭総合」の学習について | <ul style="list-style-type: none"> 「家庭総合」を学習するにあたって，学習の意義や内容・方法・評価について理解します。 生活事象を総合的・多面的にとらえ，自分と他者と交流し，実習や実践をしながら学びます。 |
| | 5 | 子どもの発達と保育・福祉 ①子どもとかかわる | <ul style="list-style-type: none"> 子どもと実際にかかわり，子どもは生活の中で人とかかわりを通して育つことを理解します。 子どもの発育・発達には，個人差があるが一定の順序と共通性があることを理解し，周囲のおとなの役割，養育態度の関係について考えます。 子どもの心の発達の特徴を理解し，乳児期や幼児期の中心となる活動や言葉，自己や他者とかかわりについて理解します。 遊びの意義や児童文化の子どもへの影響について考えます。 家庭保育と集団保育の意義を理解します。 |
| | 6 | ③親の役割と子育て支援 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもを育てることや社会的意義や子育てに両性がかかわることの意義を考えます。 愛着形成や将来の人間関係の基盤について考え，保育の責任は親と社会の支援であることを理解します。 地域社会の一員として身近な子どもとかかわりについて考えます。 近年の子どもを取り巻く環境の変化について考えます。 すべての子どもが健やかに育つための福祉について考えます。 |
| 7 | 生涯の生活設計 ①生活資源を活用する | <ul style="list-style-type: none"> 生活する上で重要な要素が，生活資源であることを理解します。 自分が現在そして将来行いたいことを具体的に考え，そのためには何が必要なのかを考えます。 社会的文化的活動時間の意義を理解し，性別役割分業にとらわれず生活設計に取り組みます。 将来の生活に向かって目標を立て，展望をもって生活することの重要性を理解します。 仕事と生活の調和を図るためには，どのようなことが必要か，個人でできることと，社会全体で取り組むべきことを考えます。 | |
| 第 2 学 期 | 9 | 着る ①人間と被服 | <ul style="list-style-type: none"> 時と場合，目的に適した被服材料や被服の構成及び被服の機能を生かした適切な着装を考えます。 着装に関心をもち，自分の個性をみつめ，自分らしい着装について考えます。 |
| | | ②衣生活の自立と管理 | <ul style="list-style-type: none"> 衣生活を管理する知識と技術を習得します。 組成表示や取り扱い絵表示を確認し，着心地や管理を考えた被服の選択ができる力を身につけます。 被服材料の性能改善と着心地などについて考えます。 どのようにすれば健康で快適な衣生活を送ることができるのかを考え，自分の衣生活をふり返ります。 洗濯や手入れなど，自ら衣服を管理する知識と技術を身につけま |

| | | | |
|------------------|----|--|--|
| 2 学 期 | 10 | ③被服をつくる ④衣生活の文化 ⑤衣生活と環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 和服と洋服の構成上の特徴や被服材料，着装の特徴を理解し，衣服製作の意義と工程を考えます。 ・ 衣服製作の基本を知り，日常生活に必要な基本的な縫い方の技術を習得します。 ・ 衣生活文化の変化と伝承・創造について考えます。 ・ 布を使った伝統的な生活の工夫を取り上げ，現代に生かすことを考えます。 ・ 洗濯が環境に与える影響について認識し，配慮すべきことを考えます。 ・ 資源の有効利用の観点から循環型の被服計画の必要性について理解します。 |
| | 11 | 住まう ①人間と住まい ②住まいと生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の場として住居をとらえ，その基本的な機能に関する知識を習得します。 ・ 生活様式や住居の形が，社会制度や文化の変遷に応じて変化してきたことを理解します。 ・ 各ライフステージに応じた住居，人間と住居とのかかわりについて考えます。 ・ 家族の生活に応じた適切な住居の計画や選択ができるように，必要な知識と技能を習得します。 ・ 家族の生活の場としての住居の条件について，生涯を見通して考えます。 |
| | 12 | ③快適で安全な住まい ④住まいと社会 ホームプロジェクトと 学校家庭クラブ活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全で快適，かつ健康で耐久性のある住居に必要な機能について理解します。 ・ 快適な住まいの工夫を考えます。 ・ 住居を長く社会の資産にしていくための持続管理や長期使用の必要性などについて考えます。 ・ 住まいとまちのかかわりを考えます。 ・ 住環境にかかわる社会的なしくみについて理解します。 ・ 家庭科で学習した知識や技術を各自の家庭の中で実際に役立てるために，課題意識をもって，家庭生活の改善向上を目的に，主体的に解決をはかる活動を行います。 |
| 第 3 学 期 | 1 | 社会参加する消費者 ①社会の変化と消費生活 ②消費行動と意思決定 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済社会の変化に伴う消費生活の変化と現状について理解します。 ・ 支払い方法の多様化による消費者問題を理解します。 ・ 消費者が意思決定を行う過程について考え，その重要性について理解します。 ・ 生活情報の収集・選択と活用について考えます。 |
| | 2 | ③消費者の権利と責任 環境保全と ライフスタイル | <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費生活の現状と課題，消費者問題や消費者の自立と支援等について理解します。 ・ 日本と世界の消費者運動の動きを理解し，消費者の権利と責任について考えます。 |
| | 3 | ①持続可能な消費 ②持続可能な社会に向けたライフスタイル 家庭科学習のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な未来を実現するために，何が必要かを考えます。 ・ 国際標準化機構（ISO）による品質管理や環境管理などに関するマネジメントシステムについて理解します。 ・ 自らの消費行動によって環境負荷を低減させ，進んで地球環境保全に貢献できるライフスタイルを実践できるようにします。 ・ これまで学んできたさまざまな事柄を統合化し，家庭科学習のまとめを行います。 |

3 評価の観点、内容および方法

| 評価の観点 | 評価の内容と方法 | |
|----------|---|--|
| 関心・意欲・態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者とのかかわりと福祉，消費生活，衣食住などについて関心をもったか。 ・ 生活の充実向上を目指そうとしているか。 ・ 学んだことを生活に生かそうとする実践的な態度を身につけたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート，レポートへの取り組み ・ ホームプロジェクトでの実践 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者とのかかわりと福祉，消費生活，衣食住などについて，自らが課題を見いだしているか。 ・ 課題の解決を目指して思考を深め，適切に判断する力を身につけているか。 ・ 自らの考えを工夫し創造する能力を身につけているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ワークシート，レポートの考察内容 |
| 技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者とのかかわりと福祉，消費生活，衣食住などに関する技術を総合的に身につけているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームプロジェクトの実践内容，発表内容 ・ ワークシート，レポート |
| 知識・理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者とのかかわりと福祉，消費生活，衣食住などについて理解したか。 ・ 人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者とのかかわりと福祉，消費生活，衣食住などに関する知識を総合的に身につけているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ワークシート，レポート |

4 各学期，年間の評価方法

- 学期ごとの評価は，定期考査を70%，その他の評価を30%として合わせて評価します。
- 年間の評価は1～3学期の成績を総合的に評価して算出します。